

久慈ニッキ



久慈はここです

2013年の春、日本に興味がなくとも1回くらいは聞いたことがあると思う、日本の有名な放送局のNHKで「あまちゃん」が放送されました。自分は放送されている時期に見たわけではなく、1回目の岩手大学に留学しているときの2015年の冬に見ましたが、結果から言うと非常に面白かったです。「あまちゃん」は久慈を背景にしたドラマです。

藤のように絡まっている恋愛関係とか、女子同士でほっぺを殴る打撃技が乱舞する韓国の朝ドラとは異なる、「あまちゃん」は希望的で明るいイメージの典型的な日本の朝ドラだったので、むしろ自分は面白いと思ったのかもしれません。

「あまちゃん」で面白いと思った要素はいろいろありますが、隣人と仲良く生きている田舎の人たち、町のことを心から思う姿を見ると、自然に自分もドラマの中の人物を応援していました。他によかったと思ったことは、久慈の海女・琥珀・南部潜り・震災からのいろんな努力などがよく出ていて、久慈の特徴が分かりやすかったところでしょうか。

しかし、この「あまちゃん」は明るい内容だけで構成されているわけではありません。若者の都市へ

の進出による後継者不足・華々しい都市を懐かしがる人・東日本大震災など、実際によくある社会的問題も「あまちゃん」でも主な内容として扱っています。

序論が長いですが、いきなり「あまちゃん」を言い出したのは、岩手大学から申し込みした「久慈侍浜町ホームステイモニターツアー」で11月の11～13日に久慈市と侍浜町に行ってきたからです。ホームステイしたところである侍浜町は、久慈と車で15分くらい離れた田舎でありながら、復興を頑張ろうとしてるところでした。今年で2回目の「侍浜マルシェ」がそれです。

「侍浜マルシェ」



侍浜マルシェの屋台



町の住民が作った展示品

現代のお祭りだと思うこのイベントでは、ホタテ・アワビ・串・魚・でんがくなどを売っている屋台や、体育館の中には様々な展示品があったり、野菜なども詰め放題で売ってました。それと昼過ぎからは踊りや合奏など、庶民が楽しめるイベントが多かったです。

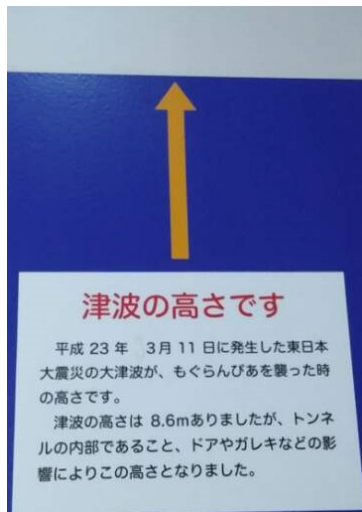
「もぐらんぴあ」

水族館「もぐらんぴあ」。ここは久慈だけのオリジナル要素が多く、いろんなものが見れました。一番有名なのはドラマ「あまちゃん」のすべての始まりである「海女」。なんと観光海女がここで見れるんです。質問タイムにおばーちゃんたちから“歳はいくつなの？結婚してるの？”など海女とは全然

関係のない質問を、さわやかに返す海女さんでした。あとで聞いたんですが、この海女さん「侍浜マルシェ」でほうれん草を売っていたらしいです。あと、「ここ津波あったな」と気づかせる表示板もありました。



もぐらんびあで見れる観光海女



震災を感じさせる「津波の高さです」



もぐらんびあを応援している「さかなクン」

「あといろいろ」



ドラマとあまりにもそっくりで大笑いした‘まめぶぶ食うが?’



1億年の歴史を誇る三陸ジオパークの断層



船長さんからの親切な説明を聞きながら、太平洋の上でみた海岸

おおざっぱな結末

実は自分も昔は韓国の首都であるソウルに憧れてました。それで短い間、ソウルでバイトをしたことがあります。憧れも長続きできず、都会の硬さを感じたことがあります。

久慈と侍浜で一番心に残ったことは、田舎なりの自然もそうですが、みんな親切だったということです。それは、日本人特有の親切ではなく、ホームステイした大谷さんが実の孫のように接して下さったことや、あれこれ詳しく説明して下さったガイドの方、娘が韓国人と結婚したから韓国人である自分により親切にしてくださった船長さんや、あと引率して下さった方々など、全部話すと終りがみえないと思います。(ホームステイは連絡すると利用できるらしいです。)

久慈には、震災の後地元で頑張ってる人たちと、地域活性化のために他のところから来た方々がいました(モニターツアーの関係者である木村さんは京都、観光海女さんは東京出身です)。華々しい都会もいいですが、人のぬくもりが残っている久慈に行くのはどうでしょうか。